



横浜市議員

竹内やすひろ

市政報告

ヒットエンドラン通信



「舞鶴引揚記念館」を視察 —引揚の歴史を後世に—

【舞鶴引揚記念館の概要】昭和20年(1945年)第二次世界大戦が終結し、旧満洲(現・中国東北部)や朝鮮半島をはじめ南太平洋など多くの国や地域に約660万人もの日本人が残されました。これらの方々を速やかに日本へ帰国させなければならなくなり、「引き揚げ」が開始されました。呉をはじめ順次18港の引揚港が全国につぎつぎと設置され、舞鶴もその役割を担うこととなり、主に旧満洲や朝鮮半島、シベリアからの引揚者・復員兵を迎え入れる港となりました。



横浜市会常任委員会視察

舞鶴では昭和20年(1945年)10月7日に最初の引揚船「雲仙丸」が入港してから昭和33年9月7日の最終引揚船「白山丸」の入港まで国内で唯一13年間にわたり約66万人もの引揚者・復員兵を迎え入れました。舞鶴引揚記念館は、昭和63年(1988年)4月に舞鶴市民や引き揚げて来られた方々をはじめ、様々な支援・協力により、再び繰り返してはならない「引き揚げ」の史実を未来に伝え「平和の尊さ、平和への祈り」のメッセージを発信しています。



舞鶴では昭和20年(1945年)10月7日に最初の引揚船「雲仙丸」が入港してから昭和33年9月7日の最終引揚船「白山丸」の入港まで国内で唯一13年間にわたり約66万人もの引揚者・復員兵を迎え入れました。舞鶴引揚記念館は、昭和63年(1988年)4月に舞鶴市民や引き揚げて来られた方々をはじめ、様々な支援・協力により、再び繰り返してはならない「引き揚げ」の史実を未来に伝え「平和の尊さ、平和への祈り」のメッセージを発信しています。

次世代による引き揚げ史実の継承

戦争の悲惨さや核兵器の非人道性を直接体験した被爆者や戦争体験者の高齢化が進んでいますが、数多くの証言は、平和の意味を次世代に伝えることに大きな力を発揮しています。広島・長崎の被爆体験、沖縄戦、全国上空襲や戦災、引揚げの体験など証言の数々は、かけがえのない「**人類の遺産**」

です。これらは繰り返してはならない歴史の教訓であると同時に、「平和を願う心」を未来へつなぐ懸け橋です。

舞鶴引揚記念館では、「次世代による引き揚げの史実の継承」に注力しています。引き揚げやシベリア抑留の史実を後世へ語り継いでいくため、毎年「語り部」養成講座を開催。訪問した当日は、中学生の男女2名の方が「平和への心」を込めて説明をしてくださいました。これは、引き揚げの史実が風化しつつあるなか、次の世代を担う学生たちが自らの言葉で「引き揚げの歴史」を伝えていくという取り組みです。学生語り部は、中学生から大学生等で構成され、主に引揚記念館のイベント時の語り部活動や他市学生との交流等を行っています。



横浜市議員

竹内やすひろ (たけうちやすひろ)

神奈川区政務調査事務所

横浜市神奈川区大口通り127-16コスガビル1F

TEL : 045-716-6822 FAX : 045-716-6823

ホームページ <https://takeuchi.180r.com>

E-mail mail@takeuchi.180r.com

市民・にぎわいスポーツ文化・消防委員会委員長

市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会

公明党神奈川本部幹事長代理

公明党神奈川本部国会連絡局長

公明党東横浜総支部長

公明党神奈川支部 支部長

防災士

公式ホームページ

<http://takeuchi.180r.com>



戦争という過ちを二度と繰り返さない世界へ

8月15日、80回目の終戦の日を迎えました。あの日から80回目となる終戦記念日を迎えた国民の多くが、直接の経験としての戦争を知らず、記憶としての戦争を受け継ぐ時代を生きています。

戦後80年は「被爆80年」の節目であることを忘れてはなりません。国内では核武装を正当化するような声の一部がありますが、核兵器不拡散条約を批准する日本では、非現実的な議論と言わざるを得ません。公明党は、核保有に断固反対します。唯一の戦争被爆国だからこそ知る「被爆の実相」を国内外の若い世代に伝え、平和への取り組みの機運をさらに高めることが重要です。公明党は、平和創出ビジョンで

掲げた「平和の心の継承」を進めて参ります。公明党は歴史の教訓を広め、「平和の心」を継承する取り組みを推進し、平和を「自分ごと」として考える社会を築いてまいります。



横浜市「ピースメッセンジャー都市」として

横浜市における平和への取り組みでは、都市と都市とが国際親善や相互理解を深めることが世界の平和につながるという考えのもと海外姉妹都市度との連携を長年にわたり進めてきました。また、国際連合によって国際平和年と定められた1986年(昭和61年)には、「国際平和年よこはま記念事業実行委員会」を組織して様々な国際平和に関する事業を実施。それらの取組が評価され、1987年(昭和62年)に、広島市・長崎市とともに国際連合からピースメッセンジャーの称号を授与されました。以降、**ピースメッセンジャー都市**として、国際平和講演会の開催や平和に関するパネル展の開催、核実験を行ったあらゆる国に対して抗議文を送付するなどの取組を行っています。

公明党は、横浜社会においても、議会で「**核廃絶へ向けた取り組み**」を訴えています。また、平和創出ビジョンで掲げた「**平和の心の継承**」を進めて参ります。歴史の教訓を広め、「**平和の心**」を継承する取り組みを推進し、平和を「自分ごと」として考える社会を築いていきます。さらに公明党は、これからも核兵器禁止条約の締約国会議へ党所属議員を派遣するとともに、日本政府に対してはオプザーバー参加を決断するよう粘り強く訴えていきます。



露軍がソ連軍を倒して行進する日本兵

シベリア抑留

ソ連軍に投降した多くの日本兵や一部の民間人は、「トウキョウグモイ」(東京へ送してやる)と言われましたが、実際には日本へ送還されることなく、シベリアをはじめとするソ連圏内へ強制連行されました。その数はおよそ60万人といわれ、多くはウクライナやジョージア(グルジア)、ウズベキスタンやカザフスタンなどの中央アジアまで連行され、露に反する強制収容所(ラーゲリ)での生活を余儀なくされました。



横浜市国際平和の推進に関する条例を制定

横浜市では、国際平和の推進に関し、横浜市及び市民の皆様の役割を明らかにするとともに、市の施策の基本となる事項を定めることにより、国際平和の推進に関する施策を総合的に実施し、市民の平和で安心な生活及び国際平和に寄与することを目的として、公明党がリードし、「**横浜市国際平和の推進に関する条例**」が議員提案により制定されています。

(詳細:横浜市HPでも公開)

白樺日記



世界記憶遺産登録資料。シベリア抑留中に、白樺の皮、空き缶を加工したペン、煤を水に溶かしたインクで日々の思いを和歌にしたためたもの。収容所等での所持品検査をくぐり抜け、奇跡的に没収を免れました。